

史 談

2024 (R 6) 11. 11

■令和6年度史談会研修旅行の開催

次第に秋が深まっています。皆様お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、10月18日(金)に16人の参加者で今年度の研修旅行を開催しました。

心配した天候にも恵まれ、心地よい秋空の下、めぐった場所は次の場所です。

- ①おぐにふるさと文化館 「百石」
- ②大宮子易両神社 (大宮講の絵馬掲示)
- ③産小屋 (かつてのお産の施設)
- ④光岳寺 (善光寺式三尊像)

参加者の加藤晃一さんに感想を書いていただきましたので掲載します。

史談会小国めぐり

加藤晃一

10月18日(金)残り少ない有給休暇を取得して白鷹町史談会の研修旅行に参加しました。小国町は私にとっては20数年前に3年間暮らした町であり、北は朝日山系、南は飯豊山系に挟まれた風光明媚なところで、思い出のある場所でもあります。

この日は少し紅葉にはもう少しでしたが、当日は天気にも恵まれ、素晴らしい1日を過ごすことができました。

まず最初に伺ったのは伊佐領地区に新しくオープンした「おぐにふるさと文化館 百石」でした。

ここは旧伊佐領小学校の建物をそのまま活用した民俗資料館で、主に小国町に伝わる農機具やマタギに関する資料が展示されており、民俗資料館としてはかなり充実していると思いました。小国町教育委員会の蛭原さんから館内を案内していただき、「農機具などは白鷹町にも同じものがある。」とか、狩猟関係の展示品にでは「見たこともない。」などと話をしながら有

意義な時間を過ごさせていただきました。ただ残念なことは県指定の天然記念物の「そろばん玉石」や「雷石」が展示されているものの、もう少し小国地域の自然地理学的な部分も充実すれば素晴らしい資料館になると思います。

昼食は叶水地区に足を延ばし、「ほたる」でそばをごちそうになりましたが、横川ダムができてからは、叶水地区までの道路の様子も大きく変わり、また素晴らしい景色を堪能することができました。

午後からは大宮子易神社と産小屋、光岳寺と見学しましたが、どちらも小国に住んでいる時はまったく興味を持たずにいたため、あらためて謂れや歴史などを説明していただくと、以前小国町に住んでいた3年間はもったいない時間を過ごしていたと今更ながら反省させられました。

聞けば大宮子易神社のすぐ脇を自動車専用道が計画されているとのこと、道路が完成すれば、小国町内も大きく変化するのかも知れません。しかし、町では「ふるさと文化館百石」を建設、今回は行けなかった黒沢峠の敷石の保全など歴史や文化を大切にしており、あらためて小国町は素晴らしい町であることがわかりました。

定年退職後白鷹町に戻り、白鷹町史談会に入会させていただいてから何度か研修旅行にも参加させていただきましたが、今回の小国町での研修を含め、みな素晴らしい経験と思い出をつくらせてもらったことに対し、感謝しております。



おぐにふるさと文化館にて

■令和6年度史談会研修会を開催します

令和7年2月22日(土)に、下記のように史談会の研修会を開催します。内容は会員の調査報告や研究の発表会です。

そこで皆さんから発表者を募ります。日頃疑問に思っていることなどをこの機会に会員の皆さんに投げかけていただくことでもかまいません。ぜひ手を挙げてくださいますようお願いいたします。

記

- 1 期日 令和7年2月22日(土)
- 2 場所 十王地区コミュニティセンター
- 3 時間 午後1時30分から
- 4 内容(未定)
- 5 懇親会

なお、発表を考えている方は令和6年11月30日(土)まで、事務局大内まで御連絡ください。

■会誌『史談』第31号を発行します

今年度に会誌『史談』第31号を発行する予定です。現在考えている内容は、令和4年、令和6年の総会の講演内容、町報の「さんぽ道」に令和4、5年度に掲載した内容などです。

さらに、皆さんの現在の生活や今勉強していること、また調査報告や研究報告なども載せたいと思っています。

そこで、皆さんから原稿を求めたいと思います。掲載希望の方がいらっしゃいましたら事務局大内、または会長守谷までお知らせください。

なお、役員から声がけなどしたいと思います。快くお引き受けいただきますよう、お願い申し上げます。

原稿の締め切りは令和7年1月31日(金)と考えています。ぜひ原稿をお寄せください。

■十王焼のことなど

守谷英一

このところ若い方々と一緒に勉強していることがあります。何れも置賜地域に特有のもので、正月飾りの「キリハライ」という切り紙細工のこと、また「草木供養塔(草木塔)」という珍

しい石塔のこと、そして白鷹町の「十王焼」のことです。

「キリハライ」と「草木供養塔」については、ここ20年の間に少し勉強したもので、若い人から問い合わせがあったのをきっかけとしてもう一度勉強し直してみようと思っています。

「十王焼」については、全く不勉強でした。ただ、私が住んでいる近くで粘土や釉薬などが採取されたということを知っていたので、これを機会にきちんと勉強してみようと思ったのです。

問い合わせがあったのは東北芸術工科大学で教鞭を執っているアーティストの永岡大輔さんからでした。打ち合わせをして、第1回目の調査を10月28日(月)に行いました。

調査は山形大学工学部の准教授濱定史さんも同行して3人で行いました。正念寺の寺域や荒砥高校の校地、稲荷神社の境内地、嶋林正行さんの畑と荒砥仲町、新町地区をうろうろした後、十王焼の旧窯場跡の探索に出かけました。

旧窯場は私の記憶があやふやでしたので、見ることはできなかったのですが、十王焼の窯元である柴田家に出かけてみました。

幸い、現当主の柴田泰雄さんがいらっしゃったので、お話を聞くことができました。

それが第1回目の調査の概ねの報告です。

これは、かつて奥村幸雄先生がまとめられた『瀬戸山物語』を追いかけていることです。奥村先生は本当に貴重な仕事をなさったなとしみじみに思います。

次回は11月末になりそうです。そのようなことをして楽しんでいますので、興味を持たれた方はぜひお声がけください。

■事務局から

町歴史民俗資料館で11月2、3日に小判の実物を展示したところ、383名が来館されました。TUY「どすこい山形」や18時代のNHKニュースで紹介されたこともあり、異例のにぎわいとなりました。飛脚溺死によって小判を紛失したと記した古文書「寛長公御代要覧」も共に展示でき、白鷹の歴史ロマンをお伝えできたかと思います。まだまだ文化の秋を楽しみましょう。